

令和 2 年度
事業報告書

 社会福祉法人 御浜町社会福祉協議会

目 次

【組織の充実強化、法人の健全な運営への取組み】

- 1 組織経営の充実強化
- 2 人事労務管理・個人情報管理・リスクマネジメント対策
- 3 職員の資質向上と確保
- 4 基金・各種積立金と自主財源の確保
- 5 各種関係機関との連携、各種会議への出席
- 6 災害に対する取組み活動
- 7 情報発信の取組み
- 8 地域福祉活動計画の推進

【地域内の相談支援への取組み】

- 9 総合相談事業の実施
- 10 生活困窮者等支援活動の展開
- 11 権利擁護に関する相談・研究・協議
- 12 あんしん訪問相談事業
- 13 御浜町民生委員児童委員協議会との協働活動の推進

【地域づくりに向けた支援活動と地域福祉教育への取組み】

- 14 生活支援体制整備事業
- 15 ボランティアセンター事業
- 16 福祉意識啓発事業の実施
- 17 ささえあいサービスサービス事業
- 18 ふれあいサロン
- 19 ふれあい配食サービス
- 20 子育て支援活動の展開
- 21 ふれあいサロン
- 22 カフェ「IgoI笑」においての小地域福祉活動の展開
- 23 当事者及び当事者組織に対する支援の実施
- 24 神木ほのぼの館を活用した地域福祉活動の展開
- 25 児童生徒ボランティア啓発事業
- 26 みはまっこ体験クラブ
- 27 地域福祉教育推進事業
- 28 介護予防・交流促進支援事業
- 29 御浜町敬老会の開催
- 30 高齢者見守り活動活動の再構築
- 31 ボランティア育成事業の実施

【在宅で生活する方への福祉サービスの提供への取組み】

- 32 居宅介護支援事業(御浜町ケアサポートセンター)
- 33 訪問介護事業(御浜町ヘルパーステーション)
- 34 通所介護事業(御浜町デイサービスセンター)
- 35 訪問入浴事業(御浜町訪問入浴サービス)
- 36 特定相談支援事業・障害児相談支援事業(御浜町指定障害者相談支援事業所)
- 37 障がい者への訪問サービス事業(御浜町ヘルパーステーション)
- 38 知的障がい者日中一時支援事業(にここサービス)事業
- 39 福祉有償運送サービス事業
- 40 育児用品貸出事業
- 41 在宅介護者支援事業
- 42 見守り・緊急時対応システム事業
- 43 一般介護予防事業

【その他の取組み】

- 44 福祉系サークル等に対する協力
- 45 福祉健康センター指定管理事業

事業名	人事労務管理・個人情報管理・リスクマネジメント対策
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	職員の人事労務管理(労働環境・健康等)の充実、個人情報の管理の徹底、各種リスクマネジメントへの対応を行うことで、社協の健全な経営を図っていく。
事業内容	<p>1. 人事労務管理関係</p> <p>①社会福祉法人役員及び幹部職員研修会へ参加 ②雇用管理や労務管理に関する講習会へ参加 ③働き方改革への対応 ほか</p> <p>2. 個人情報管理関係</p> <p>①情報保護マニュアルの遵守 ②個人名簿等のデータベースを集中化し、クラウドサーバーを活用して管理 ③ICTに置ける情報共有ツールの導入 ④個人情報に関する考え方(プライバシーポリシー)の規程をHP上で公表 ⑤マイナンバーをクラウドサーバー(専用ソフト)で管理 ほか</p> <p>3. 健康管理関係</p> <p>①全職員対象とした健康診断とメンタルヘルスチェックを実施 ②労働衛生法に基づき産業医を委嘱 ③衛生委員会の開催(毎月1回) ほか</p> <p>4. リスクマネジメント関係</p> <p>①町福祉健康センターで職員と来場者を対象とした避難訓練を実施(年2回) ②感染症拡大予防等に関する対策 ③福祉サービス向上委員会でリスクマネジメントとヒヤリハットを協議(毎月1回) ④第三者委員を設置(2名) ⑤各係ごとに苦情解決担当者、苦情解決責任者を設置 ⑥交通安全や安全衛生に関する講習会へ出席 ほか</p>
総評	同一労働・同一賃金への協議を行い、規程の変更を行ったことで非常勤職員を中心に処遇改善を図ることができた。 コロナ対策としてマニュアルの作成やテレワークの一時導入、分室等の対応を行った。
課題	ICTやペーパーレス化を進めるにあたっては、操作性と利便性について、職員の状況を見ながら進めていく必要がある。
その他(所感等)	働き方改革が進む中で、健全な労務管理が求められている一方で職員個々の考え方も様々で、法令を遵守した経営に取り組むと共に職員の意識もある程度統一していきたい。
改善への取り組み・方向性	働き方改革の一環として様々なICT環境の整備を進めているが、引続き効率化の内容と財源を考えながら進めていく。
特記事項	
記入者	芝

事業名	職員の資質向上と確保
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	社会福祉協議会の基本理念と職員の行動指針にそえる人材の育成と確保を目的として、社協職員として自覚と専門性を習得させる。また、業務に応じた職員の確保を行う。
事業内容	<p>三重県・県社協・紀南地域等で開催する各種研修会等に積極的に参加、また部内会議・研修等により豊かな人間性、倫理観、福祉に携わる社協職員としての質の向上を図る。</p> <p>また、専門知識を高めるための資格取得に対して、取得時の報奨金や取得に関する研修会への派遣や費用負担を行う。</p> <p>1. 社協の職員行動指針の徹底を図る。(朝礼時に唱和)</p> <p>①福祉専門職としての誇りと自覚を持ち、知識と技術に裏付けられた質の高いサービスを提供する。</p> <p>②常に住民や関係機関との協働を意識した行動をするとともに、地域においても自ら率先して福祉社会の発展に努める。</p> <p>③お客様の尊厳を保持するとともに、相談援助に際しては高い倫理意識を持って行動する。</p> <p>④常に地域福祉の充実という観点で福祉ニーズを意識し、柔軟かつ創造性に富んだサービスの開拓に努める。</p> <p>⑤職員相互が尊重し合い協調と連携のとれた業務を遂行するため、組織の一員として規律を遵守した行動をとる。</p> <p>2. 各種研修会により質の向上を図る。</p> <p>①介護サービス及び障害福祉サービス事業所集団指導へ参加</p> <p>②採用時研修の実施</p> <p>③生涯研修会への参加</p> <p>④三重県及び紀南介護保険広域連合主催各種研修会へ参加</p> <p>⑤介護の技術や知識向上を目的とした研修会への参加</p> <p>⑥法人や地域福祉サービスの知識向上を目的とした研修会への参加</p> <p>⑦社協内の定期研修会や伝達研修会等の実施</p> <p>⑧その他各種連絡会議、ネットワーク会議へ参加 ほか</p>
総評	研修について、県単位の研修についてはコロナの感染予防のため例年より少なかったが、WEBで実施されたものもあり集合研修なら1名の職員しか参加していなかった研修も複数の職員で受けることができた。また、部内研修については、様々な種類の研修動画が見れるサイトの契約を行い、研修の準備の簡略化と質を上げることができた。係長を対象とした研修会も実施している。
課題	介護支援専門員資格について、今年度から受験資格のあるものに受験を義務付けたが合格者はなし。社協だけに限らず地域全体で福祉職員の確保が難しくなっている。
その他(所感等)	
改善への取り組み・方向性	各職員の係や役割にあった内容を検討しながら、引き続き研修を行っていく。
特記事項	
記入者	芝

事業名	基金・各種積立金と自主財源の確保
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	<p>安定的な社協の運営を行っていくために、社会福祉基金及び各種積立金額の一定額を保つと共に、自主財源の確保を図っていく。</p> <p>1. 介護保険事業・障害者事業の収益を積立て、安定した経営基盤を整備する。 2. 民間の寄附等により地域福祉活動の充実を図る。 3. 社会福祉協議会会員の募集と会費の徴収により民間財源の拡充を図る。</p>
事業内容	<p>1. 社会福祉基金 法人化以前の行政が受けた寄附金と住民からの寄附金を積み立てている。用途内容は、預金利子の活動財源化と公共性が高い高額な福祉機器や大事業に活用。 (R3年3月末現在、48,563,593円)</p> <p>2. 社協基盤整備積立金 住民からの寄附を受けた際、用途が福祉事業や公共性の高いサービスに活用してほしいとの意向の際に積み立てている。 (R3年3月末現在、5,559,677円)</p> <p>3. 人件費積立金 介護保険サービス、障がい者福祉サービス等の収益を積み立てている。用途内容は、人件費の補填等に活用。 (R3年3月末現在、80,173,000円)</p> <p>4. 備品等購入積立金 介護保険サービス、障がい者福祉サービス等の収益を積み立てている。用途内容は、備品購入に活用。 (R3年3月末現在、30,260,534円)</p> <p>5. 社協会費 R3年3月に社協役職員により町内全地区で会員募集と会費徴収を実施。 会員数：一般287件、賛助466件 会費総額：322,000円</p> <p>6. 共同募金等の財源 御浜町共同募金委員会の事務局として募金活動や配分活動を行っている。今年度の一般募金活動はコロナの影響により、日本赤十字社との会費集金と合同で実施。 [今年度実績額] 一般募金：1,402,972円 歳末募金：17,251円</p>
総評	<p>社協会員については、育児用品の貸出サービス利用やマイクロバス貸出を通じて加入の促進を図ることができた。積立金は、取崩額以上の積み立てを行えた。寄附金については前年度を上回った。</p> <p>共同募金について、地域に還元される仕組みであることの周知活動に取り組んだ。一般募金については、目標額を大幅に上回った。(達成率115.5%)</p>
課題	<p>共同募金について、まだまだ地域へ還元されることや目的が認知されていないため、今後も継続して周知、啓発に取り組む必要がある。</p>
その他(所感等)	
改善への取り組み・方向性	<p>寄附金と共同募金の用途について、より明確に住民に周知し理解を得ていく必要がある。</p>
特記事項	
記入者	芝、中尾

事業名	各種関係機関との連携、各種会議への出席
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	社協の役割として、幅広い関係機関との連携を図り、協働による事業推進は必要不可欠である。各種連絡会議・研修会や専門職との協働事業を通じ、経営に必要な情報・ノウハウを得て効率的な運営と幅広い事業展開を目指す。
事業内容	<p>1. 紀南地域における各種会議等</p> <p>①熊野市・紀宝町・御浜町社会福祉協議会連絡会議への参加</p> <p>②東紀州地域社会福祉協議会事務局長会議への参加 (コロナにより中止)</p> <p>2. 三重県社会福祉協議会等主催による会議等</p> <p>①三重県各市町社協事務局長会議に参加</p> <p>②三重県地域福祉活動推進協議会に参加</p> <p>③三重県共同募金会に評議員として参加 ほか</p> <p>3. 関係機関との会議等</p> <p>①御浜町民生委員児童委員協議会総会に出席</p> <p>②紀南地域生活支援体制整備事業協議体に参加</p> <p>③地域包括ケア会議に参加</p> <p>④紀南高齢者権利擁護支援体制連絡会に参加</p> <p>⑤紀南自立支援協議会に参加</p> <p>⑥専門職の協働が必要な各種相談等における会議の開催</p> <p>⑦生活協同組合コープみえとの情報交換会 ほか</p>
総評	<p>コロナによってWEBを使った会議が増えた。集合型に比べて実施しやすいというメリットがあった。</p> <p>会議ごとに目的は違うが、個別課題から地域課題にまで幅広い福祉課題に対しての共有と協議、対応につなげることができた。また、今後の社協運営に必要な情報を得ることができた。</p>
課題	
その他 (所感等)	
改善への取り組み・方向性	
特記事項	
記入者	芝

事業名	情報発信の取組み
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	住民への福祉啓発や福祉等の情報の提供と共に、社協の活動の理解やPRを目的に行う。
事業内容	<p>◆社協だより 実績: 広報みはまに折り込んで毎月発行。基本6ページ。 (5月・7月号のみ8ページ)</p> <p>内 容 ○表紙・行事予定カレンダー ○特集…御浜町のこと もっと知りたい! 伝えたい! 民生委員児童委員の紹介 ○事業報告 ○福祉制度説明 ○ボランティア関連記事 ○社協事業案内 ○寄附 ほか</p> <p>◆広報委員会 実績: 毎月開催 委員: 職員7名 内容: 掲載記事・レイアウト等について</p> <p>◆ホームページの設置 内 容 ○社協紹介 ○事業の募集や案内 ○事業・決算報告 ○社協だよりの掲載 ○ブログ及びSNSによる事業報告 ○ご意見及びご相談に関すること</p> <p>Facebook登録数: 540件</p>
総 評	社協だよりでは写真を多く掲載し、SNSも活用することで、事業の様子をわかりやすく伝えることができ、PRできたのではないかと。また、地域で活動している団体取材し紹介していることが、活動者にとっても一つの評価となり、喜びの声が聞かれている。
課 題	幅広い年代の方が読みやすいよう、適宜レイアウトを見直す必要がある。
その他 (所感等)	子育て支援室を利用している保護者から、「子どもの写真が掲載されていて嬉しかった」等の声が聞かれた。 広報委員会において「共同募金や社協会費の活用についてもっとPRしたい」等その都度話し合い、より詳しく情報発信を行うことで、住民の理解や協力を得ることができた。
改善への取組み・方向性	社協事業案内に関して、どこに相談すればよいか、問い合わせればよいか分かるよう連絡先を明記していく。また、引き続き取材を通して、様々な活動団体とつながり作りのきっかけにしていく。
特記事項	
記入者	腰當

事業名	地域福祉活動計画の推進																		
財源元	<input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ()																		
目的	社会福祉協議会が地域福祉の健全な発展を図ることを目的に、H29年度からH33(R3)年度までの中期計画として「第3次 地域福祉活動計画」を推進する。																		
事業内容	<p>◆計画の進捗状況・ニーズ調査を実施</p> <p>○地域福祉座談会実施</p> <table border="0"> <tr> <td>神木地区</td> <td>市木地区</td> </tr> <tr> <td>実施:令和2年10月13日</td> <td>実施:令和2年10月13日</td> </tr> <tr> <td>参加:9名</td> <td>参加:11名</td> </tr> <tr> <td>阿田和地区</td> <td>志原地区</td> </tr> <tr> <td>実施:令和2年10月14日</td> <td>実施:令和2年10月14日</td> </tr> <tr> <td>参加:17名</td> <td>参加:11名</td> </tr> <tr> <td>尾呂志地区</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実施:令和2年10月15日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>参加:13名</td> <td></td> </tr> </table> <p>開催場所:福祉健康センター(全地区) ※コロナ感染予防のため</p>	神木地区	市木地区	実施:令和2年10月13日	実施:令和2年10月13日	参加:9名	参加:11名	阿田和地区	志原地区	実施:令和2年10月14日	実施:令和2年10月14日	参加:17名	参加:11名	尾呂志地区		実施:令和2年10月15日		参加:13名	
神木地区	市木地区																		
実施:令和2年10月13日	実施:令和2年10月13日																		
参加:9名	参加:11名																		
阿田和地区	志原地区																		
実施:令和2年10月14日	実施:令和2年10月14日																		
参加:17名	参加:11名																		
尾呂志地区																			
実施:令和2年10月15日																			
参加:13名																			
総評	計画により総合相談の位置づけが明確になったことで、制度の狭間となるケースの相談が増えてきている。集いの取組みには一つのニーズに対して個別に取組む方法と、テーマ的に取組む方法が見えてきている。こうした取組みから相談が入口となり、たまり場作りが出口を作っていく一つのノウハウとなっている。																		
課題																			
その他(所感等)	座談会は、コロナの関係で最初に計画していた日程を変更しての開催となったが、各地区ほぼ昨年並みに参加してもらえた。コロナ関連の話から「何もできない」という話にとどまらず、出来ることをやっていたいかなければという声が多く聞かれた。座談会を通して定期的に集まる機会を確保することで地域とのつながりを作っていくことができています。																		
改善への取組み・方向性	次年度が計画の見直し策定の年度であるため、座談会等も含めてニーズ調査を行い計画に反映していく。																		
特記事項																			
記入者	喜田																		

事業名	あんしん訪問相談事業
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	家族若しくは近隣との交流や福祉サービスの利用機会が少ない高齢者、心配される疾病又は身体障がいがある高齢者等を民生委員及び関係機関と連携し、地域福祉担当職員が月1回程度訪問することで、安否確認と会話の中から福祉ニーズの早期発見を行い、高齢者の福祉の増進を図ることを目的とする。
事業内容	<p>◆実績</p> <p>訪問回数：延べ73回</p> <p>4月：4件 5月：4件 6月：6件 7月：6件</p> <p>8月：7件 9月：6件 10月：6件 11月：7件</p> <p>12月：6件 1月：8件 2月：5件 3月：8件</p> <p>対象者：7名(令和3年3月31日現在)</p>
総評	一人暮らしや衰弱高齢者世帯が自分の課題に気付かず生活していることがあり、そういった方を定期的に訪問することでアプローチができています。地域との交流がなかった方を、地域参加につなげることができた。また、問題と考えられる事案を関係機関につなげることができ、その際に継続的な訪問により信頼関係が構築されていたため、本人に寄り添いながら支援ができた。今後も関係を構築しつつ変化に合わせて必要なサービスにつながるよう訪問を継続していく。
課題	訪問先の方は、何らかの疾病を抱えていたり、複合する課題を抱えていたり様々であるため、訪問時の本人の様子や家の様子も確認しながら、ニーズを把握するノウハウが必要である。
その他(所感等)	高齢と共に身体的に不安になってきた方や夫が急死され一人暮らしとなった方、本人から訪問の希望があり訪問世帯が3件増えた。不安感や孤独感の解消になるよう、また、生活の様子が分かるよう、定期的な訪問をした。
改善への取り組み・方向性	安否確認を含め継続的な訪問をする中で、信頼関係を構築し隠れたニーズや問題に対し支援の糸口を見つけていく。支援を要する際に、迅速に対応できるよう他機関との連携を図る。
特記事項	
記入者	和田

事業名	御浜町民生委員児童委員協議会との協働活動の推進
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	厚生労働大臣の委嘱を受けた御浜町の民生委員児童委員・主任児童委員で構成される協議会の運営を支援すると共に、相互に協働・連携を図りながら地域福祉を高める活動を展開する。
事業内容	<p>◆総会、全体会議、研修会に関しての連絡調整や書記、会計業務を行う。</p> <p>◆実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全体会議（2回）の開催 ○役員会（2回）の開催 ○地区別民児協会議の開催 ○県民児協主催研修会及び会議への参加（会長研修会・在宅福祉委員会 他） ○県民児協 理事会への参加 ○主任児童委員紀州ブロック会議・研修会への出席 ○社協との協働による要福祉対象者名簿の選定 ○社協との協働による高齢者見守り活動の展開 ○民生委員児童委員の日活動週間・役場庁舎への懸垂幕の掲示 ○町地域包括支援センター主催研修会への参加 ○老人情報誌「あくしゅ」の配布
総評	社協が事務局を運営することにより、密に民生委員児童委員協議会と連携を図りやすく、適切なサービスへとつなげており、地域や個人への適切な支援へとつながっている。
課題	今後もコロナ禍の状況が続くと予想される中、感染予防を行いながら事業展開を図っていく必要がある。また、委員の多くは高齢なこともあり、感染に対する警戒は強いため、その点も配慮が必要と感じる。
その他 (所感等)	今年度においてはコロナの影響を受け、一部事業の中止や活動の停止、研修会の延期や中止など多大な影響を受けた。また、県域での研修会や会議等が再開しても、地域の委員の警戒感により参加を見合わせることもあった。今後もコロナの影響が続くと思われることから、感染予防対策と共に精神的なサポートも必要と思われる。
改善への取組み・方向性	次年度においても、引続きコロナの状況を注視しながら委員と連携し、コロナ禍でも充実した活動が展開できるよう協議会の運営をサポートする。
特記事項	
記入者	中尾

事業名	ボランティアセンター事業
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	町内のボランティア活動等が活発に行えるよう、福祉ボランティアのみならず様々なボランティア活動や市民活動の調整や支援を行い、町内ボランティア活動や市民活動の活発化と新規ボランティアの開拓を行う。
事業内容	<p>◆延べボランティア活動者数：862人 (内訳)・配食サービス：542人 ・子育て支援：98人 ・サロン：90人 ・環境美化：34人 ・その他：98人 新規ボランティア登録者数：10人(株式会社キナン 社内有志) 相談・援助・支援延べ件数：62件 (内コロナ対応相談件数26件)</p> <p>◆会議、研修会等の開催 ○しゅみ活動講座 ○災害ボランティアコーディネーター研修会 ○高齢者見守り活動ボランティア研修会 ○ボランティア連絡協議会会議 ○ボランティア連絡協議会役員会議</p> <p>◆会議、研修会の出席 ○県ボランティア連絡協議会総合研修会(リモート研修) ○ボランティアのつどい(町の魅力を発見、意見交換会) ○配食サービスリーダー会議</p> <p>◆ボランティア情報の提供・啓発 ボランティア情報誌「てんとうむし」の発行：年3回(コロナ特別号含む) 社協だより(ボランティアコーナー)の発行：12回(毎月1ページで発行) ホームページ・フェイスブック：随時</p> <p>◆その他 ○三重ボランティア基金街頭募金実施(阿田和ピネにて)</p>
総評	コロナ禍で集まって何かするという例年の活動が出来ない中、ボランティアと共に活動の目的を確認することで、形を変えてできる方法を見つけることができ、活動の継続につながった。
課題	コロナ禍で活動を自粛するグループもあり、再開のタイミングが難しいボランティア活動もある。 ボランティア人数が減少する中、コロナの影響も大きいですが、感染対策を行い地域で活動している様々な団体や個人にアプローチし、ニーズ、シーズの調査を行い、活動の場や新たな活動の方法の提供なども検討していく必要がある。
その他(所感等)	ボランティア＝災害ボランティアというイメージが強くなっている傾向が感じられる。身近にできること、身構えることなくできることもボランティアであるといった、気づきを持ってもらえるよう広報していくことが大切だと感じる。
改善への取組み・方向性	既存のボランティアへの活動支援の継続と整理、コロナ禍において活動を模索している方へのアプローチとして、希望活動は基より不安な気持ちに寄り添いながらボランティアの生活状況を意識したコーディネートに取り組んでいく。また、ボランティア活動範囲の拡大や地域活動との連携も必要となってきたため、ボランティア・市民活動センターを視野に入れながら、各種団体と協議を進めていく。リアルタイムの情報など日ごろから収集出来るよう、SNSを通して収集と提供どちらも出来るよう工夫する。
特記事項	
記入者	長田

事業名	福祉意識啓発事業の実施
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	子どもから高齢者、障がい者、家族、地域など、みんなが人と人とのつながりの大切さについて考え、つながりのきっかけとなり、支え合いが広がり広く福祉に対する理解を深めていただくことを目的に事業展開を図る。
事業内容	<p>◆動画制作 内容：題名「とつぜんの手紙」 地域の方6名に出演していただき、実際に手紙を書いていた。 1人3分の映像×6人+2分の繋ぎ映像=20分の映像に編集 依頼先：株式会社 ヒトノハ</p> <p>※小規模の上映会を開催を予定していたが、コロナ感染予防のため見合わせる。</p>
総評	人々が集まらなくても「一人ひとりが繋がっている」ことを感じられる映像制作を行った。住民の方に協力を得て動画制作を行う中で、新たなつながりや今までの関係をより強くするきっかけとなった。
課題	出来上がった映像をコロナ禍でどのようにして見せていくか、工夫が必要である。
その他 (所感等)	動画完成まで、動画の風景にたまたま映っていた子ども達の出演の許可を得るため一人ひとり訪問し説明を行った。新たな世代に社協の取組みを知っていただくきっかけとなった。
改善への取組み・方向性	コロナの影響も継続され、大きなイベントの開催が難しいと思われるため、オンラインを活用するなど新しい生活様式を取り入れながら、広く福祉に対する理解を深めていただける事業展開を図る。
特記事項	
記入者	喜田

事業名	ささえあいサービス事業
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 (利用料)
目的	「困ったときはお互いさま」の気持ちを大切に、日常生活での困りごとに関してサポートするサービスで、誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進を目的とする。
事業内容	<p>◆ご近所活動 実績：年間利用延べ189件 ○月別利用数 4月：14件 5月：0件 6月：15件 7月：15件 8月：18件 9月：20件 10月：17件 11月：15件 12月：16件 1月：15件 2月：14件 3月：30件 ○内容別利用数（延べ数） 庭の簡単な草取り 12件 住居の清掃・整理整頓 41件 食料品等の買い物ゴミ出し 48件 衣類等の洗濯 0件 通院の付き添い 87件 話し相手 23件 墓掃除 0件 窓ふき 1件</p> <p>◆世話人活動 実績：カフェ世話人：97件 畑の世話人：217件 運転手：118件</p> <p>◎会員登録者数：57名（令和2年3月31日現在） [内訳] 依頼会員：31名 提供会員：26名</p> <p>◎研修会 「Zoom」を利用したオンライン開催 ①高齢者虐待について ②「メリットの法則」（応用行動分析）を用いた見守り活動について 会員11名参加</p>
総評	緊急事態宣言時には一時活動を休止したが、その後は感染対策や活動に関する相談に寄添うことで、活動を継続することができた。また、ゴミ出し等の短時間の困りごとの件数が増えてきている。また、継続的に利用している会員間の関係は深まっている。畑、カフェの世話人等の部門は一定の件数があがっている。
課題	利用会員が増えてきたので、それに合わせて提供会員の確保をしていきたい。また、ちょっとした困りごとに対応ができるよう、ニーズに合わせたコーディネートが必要である。
その他 (所感等)	
改善への取り組み・方向性	会員の確保のため、引き続き広報誌やSNS等で募集を行っていく。また、ちょっとした困りごとの支援として、一定の成果が上がっており、継続的にサービス提供時間及び利用料金の見直しに関する周知を行い、会員の確保を行っていく。
特記事項	
記入者	和田

事業名	ふれあいサロン
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	地区の高齢者を中心に、子どもから大人までが身近な場所に気楽に参加でき、生きがいやふれあいになる場を目的に開催する。
事業内容	<p>◆ふれあいサロン実績</p> <p>実施：町内10箇所で毎月1回、昼食を入れて約3時間程度の開催 ○神木 ○上市木 ○下市木 ○引作・柿原 ○萩内団地 ○尾呂志 ○志原 ○山地 ○上地 ○阿田和</p> <p>参加：年間延べ806名 月別参加人数（参加者数） 4月：17名 5月：0名 6月：83名 7月：80名 8月：80名 9月：67名 10月：80名 11月：78名 12月：80名 1月：84名 2月：84名 3月：73名 *4月途中から5月末までコロナ感染拡大予防のため休み</p> <p>◆訪問型ふれあいサロン実績</p> <p>コロナにより通常のふれあいサロンが休止中の際、孤立させないため訪問によるサロンを実施 実施：1人滞在時間20分 内容：レク体操及びチラシを配布し情報提供（コロナ関連の詐欺、咳エチケット） 訪問：101人</p>
総評	コロナ禍により検温・消毒・密・時間短縮・弁当持ち帰りなどするなど感染試行錯誤を行いながら開催した1年だった。開催できなかったことで、当たり前であった毎月1回の集まりの大切さを確認できたようで、その後感染予防対策をして開催出来ていることに喜びの声が多く聞こえた。
課題	サロンの重要性が増す中、コロナの影響がまだまだ続くと思われるため、つながりが途切れないよう集まらない時につながるツールを参加者と検討していく。
その他 (所感等)	町内全地区のサロンを一同に集まる「全員集合」はコロナにより開催できなかったが、サロンの活動内容・目標シートを作成し冊子が出来た。
改善への取組み・方向性	サロンの重要性が増す中、コロナの影響がまだまだ続くと思われるため、つながりが途切れないよう集まり方の工夫や集まらない時につながるツールを参加者と検討していく。
特記事項	
記入者	坂

事業名	ふれあい配食サービス
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	ふれあい型の配食サービスとして、高齢者宅へボランティアの手作りお弁当を配達することで、高齢者とボランティアとがふれあい、安否を気遣いながら地域で支えあって暮らしていける町づくりを目的とする。
事業内容	<p>◆上市木地区 ※コロナにより5月の配食は全地区中止とした。 実施回数：8回 配達件数：延べ56件 ボランティア活動数：延べ8名</p> <p>◆下市木地区 実施回数：8回 配達件数：延べ650名 ボランティア活動数：延べ128名</p> <p>◆志原地区 実施回数：8回 配達件数：延べ562名 ボランティア活動数：延べ79名 ※4月、11月はボランティアが調理を行った。</p> <p>◆神木地区 実施回数：8回 配達件数：延べ246名 ボランティア活動数：延べ72名</p> <p>◆阿田和地区 実施回数：16回(2班に分けて実施) 配達件数：延べ1,082名 ボランティア活動数：延べ158名 ※11月はボランティアが調理を行った。</p> <p>◆尾呂志地区 実施回数：8回 配達件数：延べ350名 ボランティア活動数：延べ97名</p>
総評	コロナ禍により公共施設が使用できないなど、やむなく5月の配食サービスは全地区中止となったが、配食サービスの目的をリーダーと確認し、コロナ禍においてもつながり続けるためにお弁当を業者に依頼し、配達するという形で継続することが出来た。
課題	調理再開の時期が延びる可能性もあり、ボランティア活動が長期にわたり休みとなってしまったため、ボランティア意欲の低下が懸念される。また、地区によっては手作り弁当に切り替えたいところもあり、今後の活動再開へのきっかけ作りを検討したい。
その他(所感等)	感染症対応のマニュアルを作成し、ボランティアに周知し、携帯用手指消毒液をボランティア全員に配布することで、安心して活動を続けていただけた。
改善への取り組み・方向性	長期にわたり調理ボランティアが休みとなったため、意欲低下が懸念されるため、地区によっては手作り弁当に切り替えたいところもあり、状況を見ながら今後の活動再開へのきっかけ作りや活動方法など検討していく。
特記事項	
記入者	長田

事業名	子育てサロンの開催
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 (参加費、共同募金)
目的	同じ子育てをする者同士がふれあい、育児の不安や悩み事を相談するなど、地域の中で気軽に集える場所作りを目的とする。
事業内容	<p>◆ちびっこランドしはら 実施：毎月第2火曜日 10時00分～11時30分 (4月、5月コロナ感染予防の為、8月、1月休み) 場所：志原公民館 ほか 参加：34組 (12月はだるまランドと合同で実施)</p> <p>◆だるまランド(ちびっこランドいちぎ) 実施：毎月第4火曜日 10時00分～11時30分 (4月、5月コロナ感染予防の為休み、12月はしはらと合同で実施) 場所：下市木公民館 ほか 参加：26組</p>
総評	コロナ感染対策のためプログラムなど流動的に変更して、今できることを参加者と相談し、感染予防対策をしながら、開催が出来る方向をすすめていくことができた。
課題	コロナ感染拡大予防の観点からもプログラムの内容など流動的に検討する必要がある。
その他 (所感等)	コロナ感染拡大予防の為、4・5月は開催を中止したが、プログラムを変更したり、感染予防対策を行いながら開催が継続できるように工夫した。だるまランドでは高齢者と交流がとれるようプログラムの内容を考え取組んだ。
改善への取組み・方向性	次年度においても、コロナ感染拡大の予防を考えながらそれぞれの特色を活かしたプログラムの内容を検討していく。 参加者が減少しているので、多くの方に参加していただくためSNSやチラシの配布等情報提供を工夫する。
特記事項	ちびっこランド市木においては、下市木のふれあいサロンと合同で「だるまランド」として実施。
記入者	和田

事業名	当事者及び当事者組織に対する支援の実施
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 (共同募金、参加費)
目的	在宅の高齢者や心身障がい者の方などに対し、必要に応じて新規たまり場づくりやボランティアと民生委員児童委員等との協働による支援を行うほか、社会参加を図る各種支援事業を実施する。
事業内容	<p>◆フレンドの会 実績：年間7回 参加：延べ80名 内容：ポッチャ、カラオケ、運動会、一泊旅行、新春かきぞめ、節分ゲーム</p> <p>◆紀南地域生活交流会 実績：3回（4回計画し、1回はコロナ感染予防対策のため中止） 参加：延べ24名 内容：七夕かざり、体操&レクリエーション、節分を楽しもう</p> <p>◆歳末事業 実施：令和2年12月25日（木） 参加：42名（フレンドの会、南紀さんさんワーク、プチトマト、ボランティア）</p> <p>内容：クリスマス会（すごろく大会）</p> <p>◆在宅介護者に対する支援事業 実績：年間3回 参加：延べ10名 内容：交流会</p> <p>◆あくしゅの作成と配布 実績：年3回発行 読者数：213名</p> <p>◆声の広報配布事業 実績：年間12回 対象者：3名 ボランティア：6名</p>
総評	年度当初は、自粛が続き活動が危ぶまれたが、正しく感染予防対策を行い、集まり方や内容等工夫することで形を変えながら実施することができた。
課題	活動が継続できるようにボランティア等とも協働し、それぞれの特性をみながら運営の支援を検討していく。
その他 (所感等)	個々での活動もあるため、つながりを感じてもらう工夫が必要である。
改善への取組み・方向性	障がい者の方々等、集まり生きがいや交流を深めるグループに対して、ボランティア等との協働により運営の支援を行う。
特記事項	
記入者	畑野、坂

事業名	神木ほのぼの館を活用した地域福祉活動の展開
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	地域の福祉拠点(神木ほのぼの館)を開放し、地域福祉の観点から児童から高齢者が気軽に集まれるスペース(たまり場)を確保すると共に、神木地区のニーズ把握活動や各種会議を開催し、コミュニティーの形成を図ることを目的としている。
事業内容	<p>◆よりみち広場 実施：毎週火・木曜日の13時から17時まで一般開放 ボランティアグループ「和」に開設を依頼 (8月1日～8月31日・12月23日～1月13日の期間は休み) 参加：1, 110名(1日の利用者数 約15名程度) 開催：年間74日</p> <p>◆その他活動 ふれあいサロン「ひよこの会」会場として活用 神木地区のストレッチ同好会が発足しその会場として活用</p> <p>◆和主催の活動・講座など ・パッチワーク教室(4回) ・手芸教室 ・押し絵作り ・クリスマス会 ・クラフト教室</p>
総評	よりみち広場は、コロナの影響で一時活動を休止したが、コロナが落ち着いた6月には、ボランティアグループ「和」によりよりみち広場を再開することができ、参加者数、層も安定している。ふれあいサロンの会場として継続的に活用され、コミュニティーの促進につながっている。
課題	町内、神木の方のニーズに合わせた利用促進をどのように図るか住民の意見を聞きながら検討していく。
その他(所感等)	
改善への取り組み・方向性	各世代を意識した事業展開や介護予防事業、ほのぼの館の活用等、神木や町域のニーズに合わせた各種事業展開を図り、児童から高齢者まで気軽に集まることができるたまり場を目指した地域福祉活動を推進していく。また、併せて広報等活用し周知啓発を行っていく。
特記事項	
記入者	喜田

事業名	児童生徒ボランティア啓発事業
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 (共同募金)
目的	御浜町内の小・中学校および高等学校を対象として、高齢者及び障がい者等との交流や各種福祉活動等により、ノーマライゼーションやボランティアに対する理解を深めると共に、思いあいとやさしさの心を育むことで、児童、生徒を通じて家庭及び地域社会の啓発を図ることを目的とする。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボランティア協力校事業 (各3万円助成) 実績：町内小中高校 8校 内容：各学校において地域との交流会や美化活動、人権学習、福祉体験等 ◆福祉教育推進校 (1事業につき1万円助成、最高5万円まで助成) 実績：神志山小学校 1校 内容：学級ごとの手話講座や福祉に関する講座の開催 『人権学習「手話を学ぼう」』 参加者：児童24名、教員5名、支援員1名 ◆学校からの依頼による福祉体験 実績：4校実施 (阿田和中、御浜中、御浜小、神志山小) ○阿田和・御浜中学校 内容：車イス体験、福祉講話 (1年生対象)、認知症講座、福祉を深めるワーク ○御浜小学校 内容：住民による戦争体験について語り (6年生対象) 協力者：下市木の80代の住民5名 ○神志山小・御浜小学校 内容：障がいに関する講話・ボッチャ体験 (5年生対象) 協力者：紀南バリアフリー研究会 5名 ◆子どもボランティアグループプチトマト 登録人数：10名 活動：プチトマト会議 (3回)、すごろく作成 (町内小学校に配布)、配食弁当に添える手紙作成
総評	<p>コロナ禍により授業の調整のため活動制限があるかと思われたが、活動はできる限り継続して行いたいという学校の意向がみられ、それぞれに学校だけで完結せず地域の方を絡めた取組みをされている。</p> <p>プチトマトの活動においては、コロナの影響により自宅のできるボランティアをメインとした活動を行った。配食の手紙づくりやすごろく作りなど関係性が一方的に感じている児童もいたため、相互の交流を図れる場を作った方が、より思い合う心を養えたのではないかと感じる。</p>
課題	<p>学校のニーズ把握を行い、福祉体験をする目的をきちんと共有しあった上で学生らの生活をイメージした学びのプログラムを検討する。</p> <p>個人での活動となった場合でも共有できる方法を検討していく必要がある。</p>
その他 (所感等)	<p>それぞれが学校の特色による取組みが行われており、ボランティアや思い合いの心を育むきっかけになっている。</p> <p>プチトマトの活動においては、会議都度、活動目的を共有し合うことで、活動意欲が落ちることなく年間通して活動が行えた。</p>
改善への取組み・方向性	<p>今後も継続してつながりのもてる活動ができるよう、必要に応じてサポートしていきたい。</p> <p>また、学校と地域とのつながりを提案できるよう、学校および地域のニーズ把握を行っていく。</p>
特記事項	
記入者	桑原

事業名	みはまっこ体験クラブ
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	町教育委員会やボランティアとの協働で、子どもたちがさまざまな体験活動ができる場と気軽に安心して集える場(たまり場)作りとして開催する。また、新しい人間関係や仲間づくり、地域の様々な世代の方々とのふれあいを通じて、子どもたち自身が地域を理解し、活動する自覚や能力を育成する。
事業内容	<p>◆実績【みはまっこレンジャー企画分】</p> <p>【第1回】 実施：10月17日（土）9時30分～11時45分 参加：13名 内容：科学教室 ※コロナ感染防止のため8月1日（土）延期分 場所：中央公民館</p> <p>【第2回】 実施：12月5日（土）10時00分～11時30分 参加：15名 内容：クリスマスリース作り 場所：阿田和公民館</p> <p>【第3回】※コロナ感染防止のため次年度に延期 実施：3月6日（土）9時30分～11時30分 内容：プラ板アクセサリー</p>
総評	年度はじめの計画のうち5講座分検討したが、コロナによる影響と講師等の都合で、行えたのは2講座のみとなった。できる限り中止せずに実施し、子ども達の体験活動ができる場づくりができ、参加者同士での交流に図れていた。
課題	コロナ禍により、本事業を見直し、活動の意義を確認し合えた。今後もボランティアグループ、教育委員会、社協で定期的に活動目的を確認していく必要がある。
その他 (所感等)	
改善への取組み・方向性	前年度に引き続き、ボランティアグループ、教育委員会、社協の協働として各団体の目的を定期的にすり合わせる。開催講座によって開催時間を検討しながら実施していく。また、参加者から開催時間、開催講座に関するアンケートの実施を検討する。
特記事項	
記入者	桑原

事業名	地域福祉教育推進事業
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金）
目的	地域内における児童福祉と地域福祉の推進を図る観点から、子どもを含めた地域住民が数多く参加し、地域内の人と人とのつながりを深めると共に世代間交流等の促進を通じて、地域福祉コミュニティーの形成を図ることを目的とする。
事業内容	<p>◆福祉コミュニティー推進事業（地区助成事業） 実績：1地区へ助成 地区別使途内容：尾呂志地区 運動会に活用 ※その他の地区についてはコロナの関係で活動を自粛のため</p> <p>◆地域福祉活動助成事業（小地域助成事業） 実績：なし ※コロナの関係で活動を自粛のため</p>
総評	前年度申請していただいた地区には、例年通りの開催ができなくても形を変えて実施する場合など相談して欲しいことを伝えることで、1地区より相談があり、地域の交流事業に活用していただけた。
課題	コロナの影響で例年通りの交流事業に関して慎重になっており、活動の自粛が続く可能性が高いと思われる。
その他（所感等）	今年度より共同募金ののぼりを設置していただいたことで、共同募金の配分金が活用されていることをPRする機会となった。
改善への取り組み・方向性	コロナの影響で例年通りの交流事業に関して慎重になっているため、気持ちに寄り添いながら形を変えてできる方法なども提案し、地域活動に活用していただけるように働きかける。
特記事項	
記入者	腰當

事業名	介護予防・交流促進支援事業
財源元	<input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金）
目的	高齢者が住み慣れた地域の中で、生きがいを持って暮らせるための意欲促進、楽しみを持って集える場の確保、介護予防への取組みを促進することで高齢者が自立した生活を継続できるような環境づくりを目指し、高齢者の社会参加促進を図る。
事業内容	介護予防イベント・集いの場活動促進イベント等イベントによる交流や情報交換等が難しい状況のため冊子を作成 ◆集いの活動集作成 内容:各地区サロン・たまり場活動においてコロナ禍での取組みについて 作成数:500冊 町内の希望者へ配布
総評	集うことが難しい中、それぞれで活動を振り返り、1つの冊子にまとめることで、各地の活動を知ることができ、会えないが紙面を通してつながりを感じてもらえた。
課題	全員集合のような一同に介してのイベントは難しいと思われるため、交流の方法等の工夫が必要である。
その他 (所感等)	
改善への取組み・方向性	全員集合のような一同に介してのイベントは難しいと思われるため、交流の方法等を検討し介護予防への取組みを促進する。
特記事項	
記入者	喜田

事業名	ボランティア育成事業の実施
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	地域福祉に関する意識の啓発や、住民参加による福祉活動ボランティアの普及・啓発・育成のためにさまざまな養成研修、講座を開催する。
事業内容	<p>◆学生ボランティア講座 実施:令和2年3月26日(金)9時30分～11時30分 対象:町内の小学生 3～6年生(卒業生も含む) 参加:4名(男子2名 女子2名) 4年生…1名 3年生…3名 内容: ・ボランティアについて ・ラオス語の翻訳シートを絵本に貼りつける</p> <p>◆しゅみ活動講座 【2回目】 実施:令和2年7月27日(月)13時13分～15時00分 参加:14名 対象:子どものマスク作りボランティアの参加者 内容:マスクケース作り講座 講師:江川奈美 氏(御浜町志原 ピーカーブー)</p> <p>【1回目】 実施:令和2年3月9日(火)10時00分～12時00分 参加:9名 内容:チャレンジYouTube講座 講師:更谷 悠 氏(熊野市井戸町)</p> <p>◆手話教室 実施:令和2年8月8日(土)10時00分～11時30分 参加:13名(大人6名 子ども7名) 講師:手話サークル「オレンジ」 山本容子氏(ろう者) 山本恭子氏(手話通訳者)</p>
総評	コロナ禍において大勢で集まることができないが、今できる活動をつなげていくための新たなツールや各々で行っている活動をつなげていくためのきっかけづくりとして取り組んだ。講座を通して新たなつながりが生まれていた。
課題	ニーズの把握の方法を考える。
その他(所感等)	世代やニーズに沿った講座のメニュー選択でき、継続した活動となるきっかけとなるものを開催していきたい。
改善への取り組み・方向性	講座を行う際に単発ではなく次の展開も意識した内容の検討し、興味のあるものを探るために、訪問やアンケート調査などを行う。開催にあたっては、感染対策のため定員を少なくし、短時間で開催回数を増やすなど工夫を行う。
特記事項	
記入者	長田、桑原

事業名	居宅介護支援事業(御浜町ケアサポートセンター)					
収入の状況	当初予算額	23,182,000	収入実績額	22,988,060	達成率	99.2%
目的	事業対象者や要支援者及び要介護者が心身の状況や置かれている環境等に応じて本人や家族の意向を基に、サービスを適切に利用できるよう、サービスの種類、内容等の計画を作成すると共にサービスの提供が確保されるよう指定居宅サービス事業者、介護保険施設等との連絡調整、その他の便宜を図る。					
事業内容	要介護状態となった場合においても、その利用者様が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営む事ができるよう配慮し、利用者様の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者様の選択に基づき、適切な保健医療サービス及び福祉サービスが多様な事業者から総合的かつ効率的に提供していく。					
	【年間のベケアプラン数】					
	事業対象者	要支援者	要介護者	計		
	32	425	1,373	1,830		
総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆月平均153名の方を支援し、前年度より3名減となった。 ◆今年度の特徴として、7月より紀南管内に在宅訪問診療所が開院され23人の利用者様が訪問診療を利用された。そのことにより、今まで病院から療養病院に転移を余儀なくされていた方が、自宅に戻り自宅で最期を迎える、またはギリギリまで自宅で過ごすという選択ができるようになった。 ◆今年度は、コロナ感染拡大予防の為、日頃から感染対策を徹底し、訪問時の滞在時間が長くなるような配慮や電話での対応、玄関先での対応等、臨機応変に行った。 					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆特定事業所加算による記録、加算に対する記録などの事務負担が大きい。 ◆介護の重度化、障がいのある高齢者や精神疾患的な症状、複雑な家族関係等の困難事例が増えてきている。 ◆コロナの終息が見えない中、感染拡大防止を踏まえ臨機応変な対応が引き続き必要となっている。 					
その他(所感等)						
改善への取組み・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◆通常時の法令上の考え方が基本にあり、その上でコロナ感染拡大防止を踏まえた対応を取っていく。 ◆看取り対応が増えてきている中、引き続き医療や介護との連携を図り、住み慣れた地域で利用者や家族が望む生活を送ることができるよう支援していく。 ◆事務負担軽減の為デジタル化による対応が可能となってきた為、出来ることから取組むようにしていきたい。 					
特記事項						
記入者	植村					

事業名	訪問介護事業(御浜町ヘルパーステーション)					
収入の状況	当初予算額	18,011,000	収入実績額	20,681,230	達成率	114.8%
目的	事業対象者や要支援者及び要介護者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう支援する。					
事業内容	ホームヘルパーが事業対象者や要支援及び要介護状態の高齢者の居宅を訪問し、入浴、排泄、食事介助等の身体介護、生活全般（掃除、洗濯、買物、調理等）に亘る生活支援を行う。 その他、通院等のための乗車又は降車の介助を行う。					
	【年間延べ利用者数】					
	事業対象者	要支援者	要介護者 (乗降のみ除く)	乗降介助 のみ	計	
	22	878	5,151	179	6,230	
	[年間キャンセル数： 346件 利用率： 94.7%]					
総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用率は前年度と特に変わりはない。 ◆ショートステイを利用していた方が減り、キャンセル数も減っている。 ◆毎日訪問の利用者様が、退院後や身体低下のため施設入所に移行されると、即収入減につながる。 ◆月1回の定例会では、テーマを決めて行ったが、コロナの影響で時間短縮や個別の定例会等としたため、思うように情報共有できなかった。 ◆他のサービスが増える際、曜日変更の希望がある場合は対応できないことがある。 ◆登録ヘルパーが増えても、扶養内や他の仕事と兼務していることもあり、新規の受け入れ調整が必要になっても、すぐの受け入れが難しい。 					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆土・日曜日に勤務可能なヘルパーが少なく、毎日訪問や訪問回数が多い時には限りがある。 ◆介護者側の視点ではなく、利用者様の生活に合わせた支援を行うことで、自立支援につながるようなサービスを提供していく。 ◆利用者様をしっかりと見て、個人に寄り添った対応が取れるよう心がけていく。 					
その他 (所感等)						
改善への取組み・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◆研修会へ参加し、自分の視野を広げる。 ◆支援が手順に沿って行われ、自己流になっていないか確認することで、サービスの質を統一していく。 					
特記事項						
記入者	宇城					

事業名	通所介護事業(御浜町デイサービスセンター)			
収入の状況	当初予算額	72,334,000	収入実績額	73,558,453 達成率 101.7%
目的	事業対象者や要支援者及び要介護者が居宅において、可能な限り現在の日常生活を維持・向上していけるように、機能訓練や認知症予防等、個別のニーズに合わせてサービス提供することで、利用者様の社会的孤立の解消や家族の介護負担の軽減を目的とする。			
事業内容	利用者様の身体機能の維持向上や楽しみ、生きがいにつながる様に、送迎、昼食、入浴、機能訓練、レクリエーション等のサービスを提供する。また、本人や家族の介護に関する相談や助言を行うことで、在宅生活の延長であるデイサービスを身近に感じていただく。			
	【年間延べ利用者数】			
	事業対象者	要支援者	要介護者	計
	20	642	6,598	7,260
	[年間キャンセル数： 934件 利用率： 88.6%]			
総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆毎日型(月～金曜日の利用)の利用者様が7名に増加。 ◆12/28は、年末の特別利用として13名の方にご利用いただいた。 ◆年度末になってから新規のご利用者様からの依頼が多くあり、収入増につながった。 ◆コロナの影響を受けることもなく、通常通りの業務を行うことができた。また、前年度は、インフルエンザやノロウイルスにより、利用者数の激減した月もあったが、今年度は利用者数減となる要因はなかった。 ◆職員間の情報共有と介護技術や知識の向上のため、定例会の回数を増やした。 			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆職員の介護技術にばらつきがあり、底上げを図る必要がある。 ◆職員の仕事に対する意識や支援の考え方に違いが見受けられた。 ◆3月末に3名の職員(非常勤職員含む)の退職に伴い、職員が不足している。 ◆認知症により理解力が低下している利用者様の予測できない行動や、施設内での徘徊が多く、転倒等のリスクが高くなっている。 			
その他(所感等)				
改善への取り組み・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◆定例会にて、介護技術やマインドセットに関する研修を行い、利用者様ごとに求められる画一的な支援が必要な部分には、ばらつきのないサービスを提供できるようにする。 ◆環境を整備し、事故の回避に努める。 ◆介護事故が発生してしまった場合は、上位者へ報告すると共に適切な対応を図る。 ◆職員ミーティングは継続して行い、職員間で情報や課題の共有を密にすることで、問題の解決に努めていく。 			
特記事項				
記入者	西口			

事業名	訪問入浴事業(御浜町訪問入浴サービス)																						
収入の状況	当初予算額	3,988,000	収入実績額	2,539,000	達成率	63.7%																	
目的	訪問入浴介護事業は、要介護者等がその心身の状況や置かれている環境に応じて、本人や家族の意向をもとに適正な訪問入浴介護を提供することを目的とする。																						
事業内容	<p>自宅まで訪問入浴車で訪問し、居室で入浴していただくサービス。 2分割式の浴槽を組み立て、利用者様ご本人の身体状況に応じ入浴ボードまたは入浴担架を使用し入浴を行う。利用時の状態により清拭での対応も行う。できるだけベッドの近くで入浴していただき、ベッドと浴槽間の移動は必ず介護職員が介助して行う。</p> <p>【年間延べ利用者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>要支援者 1</th> <th>要支援者 2</th> <th>要介護者 1</th> <th>要介護者 2</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td rowspan="3">195</td> </tr> <tr> <th>要介護者 3</th> <th>要介護者 4</th> <th>要介護者 5</th> <td></td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>3</td> <td>167</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>[年間キャンセル数： 48件 利用率： 80.2%]</p>					要支援者 1	要支援者 2	要介護者 1	要介護者 2	計	0	0	0	0	195	要介護者 3	要介護者 4	要介護者 5		25	3	167	
	要支援者 1	要支援者 2	要介護者 1	要介護者 2	計																		
	0	0	0	0	195																		
	要介護者 3	要介護者 4	要介護者 5																				
	25	3	167																				
総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆今年度も前年度に引き続き、要支援者の利用はなし。 ◆年間を通じ利用者数の変動が激しい。1日の利用人数が2～4名の間で変動しており、理由として入院、ショートステイによるものだった。 ◆新規のご依頼は2名。1名の方が入所、2名の方が死亡の為、利用中止となった。 ◆訪問看護、訪問診療等、医療サービスを利用されている方が多く、病状や、傷の処置等を含め、医療との連携が重要になっている。 ◆常に安全に気を配り、事故防止に努めた。 																						
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆高齢で重度の要介護者がほとんどな為、入院や体調不良等によるキャンセルが多い。また、病状が末期の為、長期の利用とはならず、利用者増につながらない。 																						
その他(所感等)																							
改善への取り組み・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◆訪問入浴事業は、経営的に厳しい面もある。現在は、町内でサービス提供を行っているのは社協だけだが、御浜町をサービス提供エリアとしている事業所もあり、今後について検討していく必要がある。 ◆他事業所のケアマネジャーにも周知を行い新規利用者の獲得に努めていく。 ◆他職種の事業者と連携を図り、統一されたサービスの提供に努める。 ◆安全・安楽を心がけ、喜ばれるサービスの提供に努める。 																						
特記事項																							
記入者	川本																						

事業名	特定相談支援事業・障害児相談支援事業(御浜町指定障害者相談支援事業所)					
収入の状況	当初予算額	300,000	収入実績額	584,250	達成率	194.8%
目的	障がい者(児)がその有する能力及び適正に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように支援することを目的として、障がい福祉サービス等を提供する。					
事業内容	障がい者(児)がその有する能力及び適正に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営む事ができるよう配慮し、その方の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、本人又は障がい児の保護者の選択に基づき、適切な障がい福祉サービス等が、多様な事業者から総合的かつ効率的に提供されるよう支援する。					
	【計画相談支援実数】					
	障がい児	区分1	区分2	区分3	計	
	2	1	1	3	15	
	区分4・5	区分なし	暫定			
1	2	5				
総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆年々計画相談の件数が増えてきているが、状況に応じたモニタリングだけでは、利用者様及びご家族との関係性を構築していくのが難しい面もある。 ◆この地域に計画相談を行っている事業所が少ない為、新規依頼は全て受けるよう努力してきた。 					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆計画相談の仕組みとして毎月報酬があるわけではなく、また、利用者数が増えてくるとアセスメントやモニタリングに十分な時間を取って関わっていく事が難しい。 ◆計画相談を行っている事業所が少ない為、新規依頼が続けてきても断るのが難しい。 ◆地域に障がい者サービスの社会資源が少なく、個々の障がいにあったサービスを提供するのが困難な場合もある。社会資源が少ない中、社協としての取組みも検討が必要。 					
その他(所感等)						
改善への取組み・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域として不足しているサービスや資源等もあるため、御浜町の障がい者福祉サービスの充実と向上が図れるよう、行政やサービス事業者と連携し取組んでいく。 ◆相談の多様化が考えられる為、柔軟な対応を行う。 					
特記事項						
記入者	高濱					

事業名	障がい者への訪問サービス事業(御浜町ヘルパーステーション)					
収入の状況	当初予算額	72,000	収入実績額	83,700	達成率	116.3%
目的	<p>障害者総合支援法の趣旨に基づき、利用者の意思と人格を尊重すると共に、常に利用者の立場にたち、居宅において日常生活が営めるよう必要なサービスを提供し生活の質の向上等を図ることを目的とする。 (居宅介護事業・重度訪問介護事業(自立支援給付)、移動支援事業(地域生活支援給付事業))</p>					
事業内容	<p>移動の介助、生活全般(掃除、洗濯、買物、調理等)に亘る援助を行い、生活等に関する相談及び助言を行う。</p>					
	【年間延べ利用者数】					
	種別	実利用者数	延べ利用回数			
	自立支援給付	1	38			
地域生活支援給付	1	0				
総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆自立支援給付対象者が1名利用された。 ◆相談支援専門員と、連携を取りながら在宅支援を行うことができた。 ◆地域生活支援給付対象者1名の方の利用は無かった。 ◆現在は精神面で落ち着いており、固定のヘルパーが訪問することでうまく対応できている。 					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用されている方は就労を行いながら、サービスを利用されており、仕事で疲れた時はキャンセルになり、支援が行えなくなる。 					
その他(所感等)						
改善への取組み・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◆各関係機関と協力し、安心した在宅生活を送るためにコミュニケーションを取り、意思を尊重しながら支援していく。 					
特記事項						
記入者	宇城					

事業名	知的障がい者日中一時支援事業(にこにこデイサービス)事業					
収入の状況	当初予算額	1,821,000	収入実績額	1,724,530	達成率	94.7%
目的	在宅知的障がい者を対象に、町福祉健康センターにて、参加者一人一人の個性を尊重し、自立生活と社会参加の支援を目的に開催。					
事業内容	<p>◆実施：毎週水曜</p> <p>◆内容：午前 朝の会や園芸活動（野菜や花の栽培、収穫等）、創作活動、お口の体操等 午後 テレビ体操やレクリエーション、おやつ、棒体操等のサービス</p> <p>◆延べ参加者数 307人</p> <p>園芸活動では花や野菜を育て、きれいな花を見て感動していただいたり、収穫や食の楽しさ等を体感していただけるように支援する。また、自分の役割や参加意識を持っていただくため、職員と二人組で当番制（昼食準備やお口の体操、棒体操の世話等）を設けている。更にボランティアの協力も得ながら、自分たちで栽培した野菜等を使った昼食やおやつ作りを行う。</p>					
総評	コロナ対策をしながらすすめていくことになり、季節の野菜を中心に栽培したが、コロナ禍により収穫した野菜でカレー作りやおやつ作りをする事が出来なかった。しかし、ゲームなどは、季節に合わせたゲームを取入れ、季節の行事に合わせた創作をみんなで協力し作り上げる喜びと達成感を味わえた様に思う。					
課題	固定されたメンバーなので、和気あいあいと出来ているが介護保険との併用の方も出てくるなど、今後高齢化に伴うサービス内容や選択が必要となる。					
その他(所感等)	毎年、祭りに向けた作品(雑巾刺繍など)を作っている。年々上達してきており仕上がりがとても綺麗ですばらしい物になっている。					
改善への取組み・方向性	身体機能の変化などにも留意し、それぞれの特性にあった支援が行えるようにしていく。					
特記事項						
記入者	坂					

事業名	福祉有償運送サービス事業					
収入の状況	当初予算額	161,000	収入実績額	124,550	達成率	77.4%
目的	要介護者や障がいのある方など、公共交通機関を使用して移動することが困難な方を対象に、通院、公的機関への用務等を目的に行う有償の送迎サービス。(道路運送法第79条第3号)					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 車両・・・福祉車両（軽4台）・一般車両（軽2台） ◆ 運転者・・・4名登録 ◆ 運賃・・・ <ul style="list-style-type: none"> 《介護保険連動型》片道2kmまで200円、その後2km増す毎に50円加算 《介護保険外対応型》片道2kmまで300円、その後1km増す毎に100円加算 ◆ 目的・・・通院、公的機関への用務など 					
	【登録会員数】					
	要支援者等	要介護者	身体障がい者	精神障がい者	知的障がい者	
	5	56	14	2	6	
計					83	
【年間延べ利用者数・回数・走行距離】						
延べ利用者数： 175 人 利用回数： 461 回 走行距離数： 1,696.5 km						
総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 通院のための乗降介助を中心に支援を行い、事故なく安全に運行することができた。 ◆ 車いすの足と肘を置く部分を取り外しできるタイプに変更したことで、利用者や家の状態により負担がかかっていたが、対応しやすくなった。 ◆ 毎月14名～15名の方が利用された。 					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 運転者として4名の登録をしているが、通常は訪問業務や、不定期で仕事を行っている為、送迎サービス業務を常に行うことはできない。 ◆ 運賃は当初から変更しておらず、他事業所と比べかなり低くなっているため検討する必要がある。 					
その他(所感等)						
改善への取組み・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 利用者様の状態に合わせ、安心安全に利用していただく。 ◆ 安全運転を心がけ、事故を起こさないよう運転手に対し注意喚起する。 					
特記事項						
記入者	宇城					

事業名	育児用品貸出事業
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（社協会費）
目的	住民相互の支え合い活動と地域福祉活動の観点から、子育て家庭に対して育児用品を貸し出すことにより、子どもの健全な成長を支援するとともに、若い世代の方とのつながりを作り、また子育てに係る経済的負担の軽減を図り子育て家庭を支援しすることを目的に行う。
事業内容	<p>◆利用実績</p> <p>○長期間の貸出し（新生児や乳児を養育する保護者への貸出し） ベビーシート：3件 チャイルドシート：2件 ベビーカー：0件 ベビーベッド：3件 ベビーバス：0件 ベビーバスチェア：1件</p> <p>○短期間の貸出し（帰省や里帰り等の一時的な貸出し） ベビーシート：0件 チャイルドシート：1件 ベビーカー：0件 ベビーベッド：0件 ベビーバス：0件 ベビーバスチェア：0件</p>
総評	定期的に広報したことで子育て支援室利用者からも相談を受け、利用につながった。また、子育て支援室を利用している保護者に貸し出したことで、実際にベビーシートを利用している姿を見ることができ、直接喜びの声を聞くことができた。また、他の子育て支援室利用者にも事業を知ってもらう機会となった。チャイルドシートやベビーベッドの使用は一時的で購入費用が高いため支援は必要と考える。
課題	今年度は利用希望期間が重なることはなかったが、必要に応じて育児用品の購入を検討する必要がある。
その他（所感等）	
改善への取組み・方向性	育児用品貸出事業から子育て支援室の利用や育児用品リユースなどへの参加へとつながり作りを意識して対応していく。
特記事項	
記入者	腰當

事業名	在宅介護支援事業
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	在宅で介護されている家族または要支援・要介護の状態となっている方々に対して、在宅介護負担の軽減を目的に必要な介護機器・福祉車両等の貸出を行う。
事業内容	<p>◆車イス車両貸出実績：18件 4月：1件 5月：0件 6月：2件 7月：2件 8月：0件 9月：2件 10月：2件 11月：1件 12月：0件 1月：1件 2月：5件 3月：2件</p> <p>◆ストレッチャー（ベット）車両貸出実績：22件 4月：1件 5月：2件 6月：1件 7月：1件 8月：0件 9月：4件 10月：2件 11月：2件 12月：2件 1月：2件 2月：2件 3月：3件 [用途別貸出件数] 医療機関への通院治療及び入退院 38件 地域行事や買い物など、生活支援による外出 2件</p> <p>◆介護ベッド貸出実績：18件（長期貸出：9件） 4月：1件 5月：0件 6月：2件 7月：0件 8月：1件 9月：1件 10月：1件 11月：0件 12月：1件 1月：1件 2月：0件 3月：1件</p> <p>◆車イス貸出実績：15件（長期貸出：4件） 4月：0件 5月：0件 6月：1件 7月：3件 8月：0件 9月：0件 10月：0件 11月：0件 12月：5件 1月：2件 2月：1件 3月：3件</p> <p>◆寝たきり者等寝具消毒サービス：実績なし</p>
総評	ベッド、車イス共に一定のニーズがあり、在宅生活におけるQOL向上につながっている。車イスは、怪我や体調不良の為、生活において一時的に必要な方々に対する必要性は高い。福祉車両に関しては、通院治療や入退院が大半ではある。今年度はストレッチャー車両の利用が増え、通常の車両では外出が難しい方の定期通院に活用していただけた。高齢者や障がい者、ケガ等の理由により通常の車両での外出が困難な方への外出支援のツールとして必要性は高い。
課題	通院の為の利用がほとんどで、生活支援につながる外出に対する貸出しが2件であり、生活支援での外出に対する貸出しについて周知し、活用していただけるようにする。
その他（所感等）	他事業者からの依頼や問い合わせも多くなっているため、事業内容について丁寧に説明し、トラブルなく今後も利用者のニーズに対応できるようにする。
改善への取り組み・方向性	次年度においても貸出前、返却時に点検・消毒を行い、安心・安全に利用していただけるよう留意する。ベッドに老朽化が見られるため、必要に応じて購入も検討する。HPや広報誌等PRについては今後も継続して行う。
特記事項	ベッドは2台の寄附があり23台となった。
記入者	腰當、和田

事業名	福祉系サークル等に対する協力
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（社協会費）
目的	福祉団体等の事業に対して、施設やマイクロバス等の車輛貸出等を行うことにより、地域福祉の推進やボランティア・市民活動への支援及び社協活動の周知に繋がることを目的とする。
事業内容	<p>◆手話サークル 年間を通じて手話学習会を開催し、技術の向上を継続的に図る ○実施：毎週火曜日 19時30分～21時 ○開催：34回/年（4月、5月コロナの関係で休み） ○会員：28名 ○場所：町福祉健康センター</p> <p>◆マイクロバス等の車輛貸出 次の事業を行う団体にマイクロバスの貸出を行う。 （一部の団体はワンボックス車可） 【利用可能団体】 ・御浜町内の福祉団体 ・町内の各自治会、町内の各自主防災組織 ・公共性の高いと思われる団体等 ・御浜町役場、町内各小中学校 ・ボランティア・市民活動に該当すると思われる団体で、御浜町ボランティアセンターへ登録している団体 ○貸出実績：13件（マイクロバス13件） キャンセル1件 ○貸出団体：6団体 ・御浜中学校 ・阿田和中学校 ・阿田和小学校 ・南紀さんさんワーク ・AMドリームス ・御浜町老人クラブ団体連合会</p>
総評	コロナの影響により、活動自粛のため貸出数等は大幅に減少し、手話の学習会も3ヵ月ほど開催できなかったが、活動がある際には貸出しや感染対策のアドバイスをすることで活動のサポートにつながった。
課題	前年度と比較し貸出実績が大幅に減少した。コロナの影響もあるが、より多くの団体に利用していただけるよう広報等が必要である。
その他（所感等）	手話サークルの活動は、季節の行事を取り入れることで、学習以外で手話を実践できる環境である。
改善への取組み・方向性	前年度同様、状況に応じながら、申請時には滞りなく利用いただき、活動をサポートしていく。また、手話サークルオレンジがより自主的な活動として進め、手話の学習の機会を確保していけるような支援を行う。
特記事項	
記入者	長田、中尾

